



連続企画
第1弾

VOL.71

協同組織金融機関の使命とコロナ禍の本業支援

セミナー

R3.3.9.Tue

企画のポイント

- 1：協同組織金融機関職員をターゲットに
- 2：本業支援の実例を多数紹介
- 3：講師・パネリストとして地域金融の最前線で活躍される方々を招聘。

本資料の目的

本資料では、オンラインセミナーの開催準備及び当日の様態等についてお送りいたします。

(P2…開催経緯 P3…当日の様子 P4…開催結果
P5…次回予告、今後の展開)

Turn to the next page !



完全
オン
ライ
ン
形
式



開催日時：2021年3月9日 15：30～17：30
会場：オンラインセミナー（事務局：近畿財務局内）
主催：財務省近畿財務局
協力：水野浩児教授（追手門学院大学経営学部長）

Introduction

— 開催経緯 —

本企画の開催経緯は、下記の通り。



当日の様子については、次頁参照

昨年、追手門学院大学経営学部の水野教授をお招きして、全3回にわたり「事業性評価とコンサルティング能力向上のための連続講座」を開講。第3回目では、新型コロナの影響を踏まえ、対面開催を断念したものの、テーマを「コロナ禍を踏まえた企業支援の在り方・手法」に設定し、オンライン形式でセミナーを開催しました。

この連続講座アンケートでは、講座の形式面に関して「今後も継続的に開催してほしい」「今後もオンライン形式で開催してほしい」といった前向きなご意見のほか、内容面に関しても「本業支援の具体的な支援事例を採り上げていただきたい」「業態毎の実践的な支援内容を聞いてみたい」といったご意見を頂戴しました。こうしたアンケート結果と、現在もなお続く新型コロナの影響を踏まえ、今回は、「協同組織金融機関の使命とコロナ禍の本業支援」をテーマとし、地域における小規模・零細事業者の中心的な支え手である協同組織金融機関職員の皆様を対象に、コロナ禍における地域金融機関や支援機関による企業支援の好事例を、講演及びパネルディスカッション形式でご紹介することとしました。

第1回の様子



第3回の様子



水野教授を講師に迎え、事業性評価とコンサルティング能力向上のための連続講座と題し、対面での講義を実施。

第1回 (R2.1.29) ・ 第2回 (R2.2.12)

コンサル講座
(全3回) 開催

R2.1 ~ 2

R2.7
オンライン
セミナー 開催

コロナの影響により、R2.2.26に予定していた第3回については、対面開催を断念したものの、同年7月にオンライン形式でセミナーを実施。
第3回 (R2.7.21)

R3.3

オンライン
セミナー 開催

皆様の要望
にお応えし、
今回のセミナー
実施に至りました！

－ 当日の様子 －

・・・ Theme ・・・

アフターコロナの地域で、協金が果たすべき役割とは何か。

コロナ禍という逆境の中で、いかにその真価を発揮し、事業者支援に取り組んでいくか。

● 主催者挨拶

：近畿財務局理財部長 樽川 流

はじめに、近畿財務局理財部長の樽川が主催者として挨拶を行いました。「新型コロナウイルスの影響が長期化する中、事業者に対しては資金繰り支援に留まらず、本業支援、経営改善支援を充実していくべきものと考えている。今後皆様がそれぞれの地域において事業者を支援していく際に、今回のセミナーをその一助にしていきたい。」との発言がありました。



● 基調講演

『地域の未来に貢献できる協金の姿とは』

：金融庁地域金融企画室 室長 日下 智晴氏

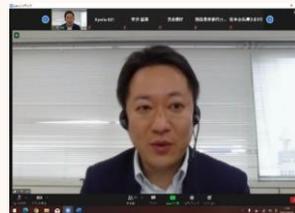
地域経済エコシステムをつくる地域金融機関の役割について、「地域金融機関が経営理念にそぐわない形で顧客を奪い合うのではなく、プラスサムの競争を行っていくことが、地域経済エコシステムの形成のために重要」との考えが示され、それを踏まえて「サプライチェーンの寸断」や「専門家支援ニーズ」、「事業意欲の減衰」といった事業者を取り巻く現下課題への対応について説明がありました。



● 事例紹介

『現場目線での支援手法・実践例』

：地域金融ソリューションセンター 代表 竹内心作氏
：しのめ信用金庫 執行役員 法人営業部長 桜井 稔氏



竹内氏からは、自身のソリューション支援業務の事例を踏まえ、販売先、販売方法の多様化等、コロナ禍における中小企業の動きと必要な支援ポイントについて説明があり、金融機関が「事業者と経営課題や将来戦略について共有すること」と「今まで以上の伴走支援を行うこと」の必要性を述べられました。桜井氏からは、「従来からの金融支援を顧客へのソリューションの一部として捉え、営業スタイルを『量から質』へ転換し、各ソリューションを手段として活用しながら顧客との関係性強化を図ってきた」しのめ信用金庫の取組の説明があり、組織的に本業支援に注力することで事業者支援に繋がった事例について紹介がありました。

● パネルディスカッション

『企業支援の好事例について』

(ファシリテーター) 追手門学院大学経営学部 水野 浩児 氏

パネルディスカッションでは、水野教授がファシリテーターとなり、日下氏・竹内氏・桜井氏を交え、現在の金融行政の動き、債務者目線から見たアフターコロナにおける協同組織金融機関の役割、本業支援に必要なことは何かについて議論されました。



開催結果

POINT

1

総合満足度 / 参加者数

97% / 163名

●非常に満足：54%、満足：43%、ふつう：3%

●参加者の属性別では、信金はもちろんのこと、初参加の公認会計士や中小企業診断士等の士業の方々の満足度が特に高い結果となりました。

- 「Web」形式のため外出が不要で参加しやすい。開始時刻や時間もちょうどよく、とても良かった。
- 現在の金融庁の見解や金融機関の実例紹介もあり、良かった。

POINT

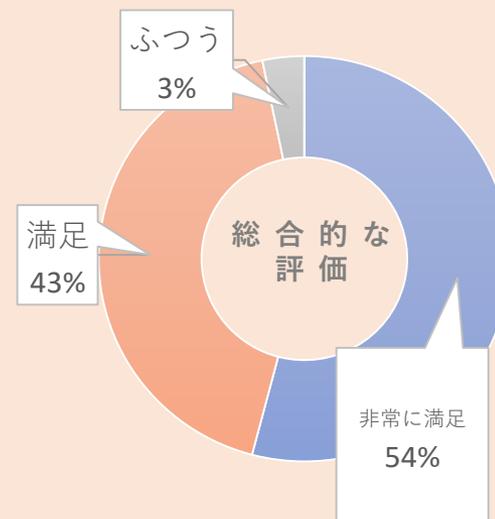
2

参加者からの
前向きな声

(一部抜粋)

●内容面についての満足の声や次回を期待する声など、多くのコメントをいただきました。

- 今後「コロナ禍における企業支援の在り方・手法ゼミ」を予定されているようですが、今回のような講義・パネルディスカッションのセミナーも四半期ごとに開催いただきたい。
- 竹内講師の支援現場の実情や、しのめ信金の本業支援体制の整備状況について、参考になった。また、パネルディスカッションにおける水野先生の進行についても、本業支援等のポイントをパネリストからの確に引き出しており、流石だった。
- 金融庁の方の熱い想いと今後の支援の方向性を知ることができた。また、協同組織金融機関と弁護士・会計士・税理士・弁理士・中小企業診断士などの士業がタッグを組んで支援することの意義を感じた。



今回頂戴したアンケートでのご意見を踏まえ、次回以降の企画に反映してまいります。

—今後の展開—

・・・To be continued・・・

本企画の続編として、協金職員を対象に、企業支援の手法について、水野教授を中心としたゼミを開講予定です。

協金職員向け
全3回開催

次回予告

コロナ禍における 企業支援の在り方・手法ゼミ



水野教授



財務省
近畿財務局

2部制（第1部：水野教授による講義・第2部：ケーススタディ）

初回：令和3年4月20日（全3回）

対象：協同組織金融機関実務担当者

- 水野教授を中心に、企業支援のために必要な知識の講義や、参加者による企業支援に関するグループワーク形式でのケーススタディを予定しております。より深く、実践的な内容を身に付けていただける内容となっております。
- 協同組織金融機関ご担当者様同士の、横の連携だけでなく、土業をはじめとした他業種との連携を深めていただける機会にもなると考えております。

Information



近畿財務局ちほめんでは、地域経済の活性化に資する取り組みを引き続き企画・検討し、実行に移してまいります。

ご相談・ご要望はこちらまで ☎ 近畿財務局 総務課企画係（TEL:06-6949-6390 Mail:kinzaikikaku@kk.lfb-mof.go.jp）

ちほめんNEWSのバックナンバーはこちら ☎ <https://lfb.mof.go.jp/kinki/chiiki.html>